

彩の歳時記

平成二十九年 一月

門松や おもへば一夜 三十年

松尾芭蕉【1644～1694】

「新年を迎え来し方三十年を振り返ると、まるで一夜の夢のようだ」芭蕉、三十四歳の作。この年に俳諧宗匠として立机(りつき)プロの俳諧師になることし、来し方の人生を感慨を持って振り返った一句。平成も二十八年が過ぎ、天皇陛下の生前退位の御表明など、三十年近い平成という時代を改めて振り返り、新しい年に寄せる複雑な思いが、芭蕉の句を通して、時を越えて伝わってくるようです。

平成という二十八年の歳月を年の初めに当たり、振り返ってみたいものです。



睦月

一月の暦

睦月【むつき】親族が集まって親睦を図る月であることから睦び月、それが転じた

一日 元旦 元旦は一年の元の旦(あき)。最も大切な年中行事で、門松で年神様を迎え、井戸から若水を汲んで供え、雑煮やおせち料理を食べて祝う。昭和二十三年に国民の休日。新年祝賀の儀・国事行為。総理大臣、知事等が天皇・皇族に新年の挨拶をする。

二日 皇居一般参賀 皇族が国民の参賀に応える行事。昭和二十八年から行われている。

初夢 一般人が二重橋を渡って皇居に入るのは、この日と天皇誕生日のみ。二日の夜から三日の朝にかけて見る夢「一富士、二鷹、三なすび」が縁起が良いとされる。内容で吉凶を占う風習もある。



書き初め 書いた物を左義長で燃やし、その炎が高く上がると字が上達すると言われている。第九十三回箱根駅伝 1920年(戦時中に一時中止)から続く歴史と伝統の大会で新年の風物詩。過去二年過去連続総合優勝の「青山学院大学」に三連覇の期待がかかる。



四日 官公庁御用始め・仕事始め・官公庁は12月26日から1月6日の休暇が法律で定められている。四日が土・日曜日の場合は直後の月曜日。大発会(だいはっかい) 証券取引所の最初の取引日。

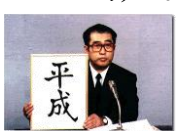
五日 小寒【二十四節気】「寒の入り」。節分(立春の前日)までが寒の内(寒さが厳しい)。

七日 人日の節句(じんじつ)五節句【一月七日・三月三日・五月五日・七月七日・九月九日】の一つ。



春の七草(芹・なずな・御形・はこべら・仏の座・すずな・すずしろ)粥を食べ、一年の息災を願う。元旦からこの日までを【松の内】。注連(しめ)飾りや門松を取り除く。左義長(さぎちやう・どんど焼き) 注連飾りや書き初め等を燃やす。十日が十五日に行く地方も。平成スタートの日(1989(昭和64)年)1月1日の朝の昭和天皇の崩御を受けて、七日午後の臨時閣議で次の元号を「平成」と決定し、翌八日から新しい元号が用いられた。

九日 成人の日 国民の祝日 ハッピーマンデー制度導入に伴い、2000年から第二月曜日。十一日 鏡開き 元は武家社会の風習。年神様に供えた餅を雑煮や汁粉にして食べる。「切腹」を連想させる「切る」ことはせず「割る砕く」を「開く」という縁起の良い言葉に。



十五日 小正月 元日から七日までを「大正月」に対して、十四日から十六日までの三日間。十七日 阪神淡路大震災記念日 1995年のこの日、震度7の都市直下型地震が発生した。



二十日 大寒【二十四節気】「寒の内」の真ん中。一年で最も寒い時期。

一月の歌 津軽海峡冬景色 昭和五十二(1977)年 歌 石川さゆり

詞 阿久悠【1937～2007】 曲 三木たかし【1945～2009】

当時、東北への始発は上野駅が多く、東京と北海道との交通手段は、国鉄と青函連絡船の乗継が航空機利用が拮抗していた。東京から青森への特急列車は、青函連絡船への接続を前提にした東北本線経由の(はくつる)・常磐線経由(ゆうづる)などの夜行列車が大半。歌詞は、竜飛崎の回想までで、函館駅までの描写はなく、青函連絡船上の津軽海峡での女性の心情を歌う。



上野発の夜行列車降りた時から青森駅は、雪のなか北へ帰る人の群れは誰も無口で海鳴りだけを聴いている私も1人く連絡船に乗りこごえそな鷗見つめ泣いていました

ああ津軽海峡冬景色

後略